

【学校・団体名】 山口県萩市立佐々並小学校

【役職名・氏名】 校長 船木 美弘

はじめに

「休校」か「学校存続」か？どちらかの選択を迫られている佐々並小学校。近年特に児童数が減少し、令和2年度末は全校児童13人、昨年度地域の保育園(分園)が休園して、地域には未就学児が0人、令和3年度から入学予定児童なし、このままでは令和8年度に児童数0人で休校になってしまう。このまま何もしないと、選択肢は「休校」のみとなる。

これらの課題を受けて昨年10月に学校と保護者が懇談し、そこでの意見は「休校(統合)」と「学校存続」が半々であった。11月に2回目の懇談、父母のどちらかが佐々並小の卒業生であり「なんとか学校を存続させたい」という熱い思いが一致。しかし学校や保護者の力だけではどうにもならないことから、校長の発案で「ささラブ応援隊」を結成することになった。行政や地域にも声をかけ、12月15日に「第1回ささラブ応援隊全体会」を開催し、地域・保護者・行政・学校の地域学校協働活動がスタートした。まず現在の課題を出し合いながら、今できることを熟議し、「移住定住で児童数を確保」をめざして大きく舵を切って進み始めることにした。2回目の全体会で「佐々並小学校と住まいの見学会」の実施が決まり、事務局チーム、空き家探索チーム、広報・情報公開チーム、アイデア実践チームに分かれて見学会の準備が始まり、3回目の全体会で実施に向けて大きく進んだ。行政や地域の支援の力も日増しに大きくなっていることが実感できるようになった。

「学校存続」に向けた地域総がかりの取組が進んでいる。「最後の大きな一手」の可能性を信じながら前進していく覚悟を、当事者である全員が持ち始めている。



1 「ささラブ応援隊」の概要 ※「規約」より

(1) 参画資格

佐々並小学校および佐々並を愛する人ならだれでも参画できる応援隊

(2) 目的

地域住民や児童の保護者が主体となって行政や学校と協働し、学校存続や地域の発展に貢献するために必要な事業を企画・運営・実践していく。

(3) 事業内容

- ①佐々並地区の学校存続のために必要な事業
- ②佐々並地区の歴史・文化・産業について学校教育を支援する事業
- ③移住者を増やし佐々並地区を活性化させる事業
- ④地区内の地域振興団体と連携し、地域活性化に資する事業
- ⑤歴史ある街並みを保全し、環境を整備する事業
- ⑥佐々並地区の情報発信に関する事業
- ⑦隊員相互の親交に関する事業
- ⑧その他地域の振興に資する事業

2 これまでの軌跡(令和2年度)

(1) 学校と保護者との懇談会

- ①10月24日(土) ※参観日後
 - ・学校の現状と児童数の推移
 - ・休校(統合) or 「学校存続」
 - ・次回までに家族会議を実施

- ②11月28日(土) ※参観日後
 - ・学校存続への強い思いを確認
 - ・応援隊の結成、準備開始

(2) 「ささラブ応援隊」の全体会等の概要

- ①第1回全体会 令和3年1月15日(金)
顔合わせ、主旨説明、チーム別会議

事務局チーム

- ・全体の取りまとめ
- ・進行やスケジュール管理、情報収集
- ・会議の企画・運営や会計

- ・外部との交渉ための最初の窓口
- ・他地区の取組を調査して伝達

空き屋探索チーム ※萩市との連携強化

- ・佐々並地区の空き屋について調査
- ・小学生が住むことが可能な住居の探索
- ・他の「空き家バンク」などとリンク

広報・情報公開チーム

- ・それぞれの活動やお知らせを紙媒体（ポスターやチラシ）を作成して配付
- ・ささラブ応援隊ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramなどを活用して移住定住を広く周知する活動

アイデア実践チーム

- ・いろいろな視点でアイデアを考えて積極的に進言する。※主に母親が活躍
- ・各チームの実働支援部隊になる。

②第2回全体会 令和3年1月27日（水）

- ・第1回見学会の運営について協議
- ・各チームの打合せ、共通理解

③第3回全体会 令和3年2月11日（金）

- ・当日の運営について協議
- ・各チームの進捗状況の確認

④チームリーダー会議

令和3年2月19日（金）

- ・チーム間の連携、協働を確認

⑤前日準備 令和3年2月26日（金）

- ・会場設営、プレゼント準備

(3) 「第1回佐々並小学校と住まい見学会」

①日時 令和3年2月27日（土）

13:30～15:30

②場所 萩市立佐々並小学校 各見学場所

③日程

13:30 小学校の見学会

- ・はじめのあいさつ、日程説明

13:40～14:15 公開授業 5校時

- ・複式授業（1・2年）
- ・ふるさと学習（3・4年）
- ・オンライン英語授業（5・6年）

※複式指導や学校教育の特色を公開

14:20 住まいの相談会

- ※随時対応 体育館にコーナー設置
- ・佐々並の紹介（旭総合事務所）

・小学校の紹介（6年生）

※児童が活動に参画

14:35 住まいの見学会

※各見学住居での物件説明

・空き家モデルハウス

※準備したバスで移動

・市営住宅・担い手定住促進住宅

※徒歩 学校のすぐ近く

15:25 終わりの会

※小学校玄関前

「ジオパーク式釣り」を行い「佐々並おいしいプレゼント」を贈呈した。

④成果と考察

「学校存続」のための大きな動きとして「ささラブ応援隊」の最初のイベントであった。地域、保護者、行政、学校の「4輪



佐々並出身タレントの支援

駆動」が一致団結して活動を行った。第1回目の見学会では、7つの家族と多くの見学者の参加があり、佐々並小学校や佐々並地区の魅力をたくさん伝えることができた。また、テレビ局の取材もあり広く周知することができた。さらに地域の方から「佐々並のおいしい野菜やお米」がたくさん届き、お土産として参加者に渡した。その結果、移住希望の家族が4つ（テレビ放送後に問合せ1つ）もあり、1つの家族の移住がすぐに決まり念願だった新一年生が入学することになり、とてもうれしいビッグニュースになった。



振り返りとして、チームごとに振り返りの会を行い、全体でも課題や改善についての共通理解を図った。

【事務局チーム】 ○：有効・成果 △：要改善
○授業参観では特色のあるICTを活用した5、6年生の授業に注目が集まっていた。大阪樟蔭女子大学の

先生、学生の支援で最先端のオンライン授業の取組
を見てもらうことができた。

○事前にモデルハウスの掃除、環境整備に取り組んだ
こともあり、見学者から「きれい！すごい物件！」
と驚きの声が上がっていた。

○ささラブ応援隊の一体感、穏やかな雰囲気が移住者
確保に繋がったと思う。色々と準備段階で大変な事
があっても、前向きに、より良くなる動きができた
ことが素晴らしいと思う。

○全国的にも閉校する学校が多い中で、逆の動きを起
こし、小学校、地域、行政、保護者が一体となって
取り組んでいることが素晴らしいと思う。今後も前
向きに楽しみながら取り組んでいけると、佐々並は
不思議な魅力のある町になれると思う。

△準備期間が短かったため、十分な協議をする時間が
なかった。会議の際、グループ討議後に各チームで
話し合ったことを、全体でしっかり確認する時間が
あれば良かった。

△空き家探索については、お仏壇、お墓の問題など様々
で、なかなか空き家を手放していただけない状況
で、空き家探索チームも困っている状況。今後は全
員が空き家探索チームという意識を持ち、空き家の
持ち主との交渉を続けつつ、新たな方法を考える必
要があると思う。

【空き家探索チーム】 ○：有効・成果 △：要改善

○前日のスケジュール変更もあったが、チーム内で情
報共有し、それぞれが役割分担できた。

○一般参加者は急遽ピストン輸送することになった
が、チームメンバーは臨機応変に対応できた。

△次に見学会をする場合は空き家や宅地をしっかりと揃
えないと、移住希望者が出た場合にも対応できない。

【広報・情報公開チーム】 ○：有効・成果 △：要改善

○受付と連携して、最終組が到着するまで道路に出て
学校案内板を掲げることができた。

○撮影部隊がそれぞれ、いろいろな角度から撮影し、
およそ700枚記録できた。

△参加者の見学の邪魔をしてはいけないので撮影が難
しかった。

【アイデア実践チーム】 ○：有効・成果 △：要改善

○みんなが手分けして準備や本番にあたる事ができ
た。

○地域の皆さんからたくさんの野菜やお米をいただ
いて、本当に大切にしてもらっているなど感じるこ

とができた。

△いろいろな事が、確定し
てから準備までが短すぎ
て負担が大きかった。

△スケジュールや内容の変
更があったり、喜んで
もらえるものにしようと協
議を重ねるたりするうちに、変更することが多く、
バタバタしてしまった。

△おたすけ市の運営方法が未確定なこと。（開催時期、
呼びかけ方法、設置場所、アナウンス方法等々）

【児童の感想】 ◇：振り返りアンケートより

◇こんなにも児童の数が減っているなんて知らなかつ
た。もっと児童数が増えて友達がほしい。

◇学校紹介で学校や佐々並の魅力や自分たちががんば
っていることを発表できてよかった。自分たちでで
きることをこれからもやりたい。

◇大人が児童のために一生懸命がんばってことがわか
った。地域の方とたくさん話げできた。



3 令和3年度の活動について

(1) 活動計画 (案) ※全体会日時は調整中

4月17日 第1回全体会 (総会)

6月25日 役員会

7月22～25日 ※個別対応

第2回佐々並小学校と住まいの見学会

8月7日 (土) 学校デイキャンプ

・親子工作教室、ちひろコンサート

8月21日 (土) 役員会

10月8日 (金) 役員会

10月24日 (日) マッチング大作戦

※延期 (地域の独身者のお見合い)

10月14日 (木) 第3回全体会

11月6日 (土) 13:30～16:00

第3回佐々並小学校と住まいの見学会

1月27日 (木) 第4回全体会

2月5日 (土) ささなみ豆腐作り

3月3日 (木) 役員会

3月24日 (木) 第5回全体会

(3) 「第2回佐々並小学校と住まい見学会」の様子

①令和3年7月22日 (木) ～25日 (日)

9時～16時

②場所 萩市立佐々並小学校 各見学住居

③対応 予約による個別対応

④周知、広告の状況

- ・「ささラブ応援隊ホームページ」で情報発信
※県の補助金で株式会社しらいに依頼
→「ホームページ完成 7月7日公開
☆すまい→賃貸や売買の情報が詳しくわかる！
☆ホームページ（申込み）で受付可能
- ・ポスター&チラシ ※保護者制作
☆公共機関や各地のスーパーやコンビニ等に掲示 ※保護者で分担
- ・地域の情報紙掲載 ※県の補助金
「サンデー〇〇」 山口市・宇部市・山陽小野田市・防府市・周南市 …… 31 万部
「すぽっと山陰」 萩市・阿武町・長門市・美祢市（無料） …… 5 万部
- ・萩市ホームページ ※閲覧数が多い。
- ・ラジオ FMナナコで紹介
- ・SNS（Instagram、Twitter、Facebook）
- ・「SMOUT」（移住スカウトのサイト）で情報公開・募集

⑤参加状況

- ・子育て家族 1組
- ・一般申込み 1組
佐々並に興味があり移住を考えている。
- ・「SMOUT」より問い合わせ 4組
※子育て家族3組、一般1組

今回からネットを活用した参加募集も行った。佐々並については、学校や「ささラブ応援隊」のホームページでたくさん情報提供しているので、佐々並に興味をもってもらうことができた。今はコロナ禍で直接訪問することが難しいが、メールでの情報交換が始まっているので、今後も継続して対応していきたい。またオンラインでの見学会や交流会も計画中である。

おわりに

この活動が始まった時、保護者や地域住民の雰囲気から、とても難しいという課題に直面していることを感じた。このような学校存続をめざす活動は前例がほとんどなく、それどころか、令和2年度末に、山口県では3校の小学校が休校になり、近隣の学校に統合されることになった。しかもそのうち2校は本校よりも児童数が多いけれど休校になり、さらに危機感が増し

ていくのを感じた。だからこそみんなで力を合わせてがんばろうという地域・保護者・行政・学校の4輪駆動の取組が動き始めたと考えられる。

何もかも初めての取組で、活動の迅速化を図るために最初は4グループに分かれて活動したが、全体会ではみんなで意見や考えを出し合いながら、全員でベストな方法を模索しながら進んでいった。

今後も持続可能な活動にするために、主に保護者が中核となって計画を進めていきたい。佐々並地域だけでなく、小規模地域は保護者である若い子育て世代が地域の担い手である。自分の子どもが卒業しても、今度は地域住民として活躍が期待されている。それだけに大きな負担にもなっているが、地域活性化のためには子育て世代が必要不可欠な貴重な原動力である。



これらの活動には行政の支援が重要である。行政は支援のツールをたくさん持っており、特に公的住居の提供、各種手当、補助金などの大きな手助けにより、活動を大きく支えている。

「佐々並のキセキ」の「奇跡」が起こり、見学会などの実践的な活動により、他市からの移住があったことが町全体のうれしい大きな話題となり、活動をさらに活気づけている。

令和3年11月現在、第1回目の見学会で1家族が移住して新1年生と4歳児、第2回目では移住を決めた家族があり来春に新1年生と新4年生が仲間入りする。他にも来年度に移住予定の家族（5歳児と3歳児）もあり、3家族6名の子どもの移住が見込まれ、令和7年度まで念願の新1年生が確保されている。

しかし、成果がなければ活動を持続させるためのモチベーションが上がらないという厳しい現状もある。これらの活動が町全体に広がり、持続可能となり、成果を積み上げていく「軌跡」（足跡）になることを願って「ささラブ応援隊」の活動を進めていきたい。そして地域の小規模校の存続、地域活性化の「期待のモデル」になりたいと考えている。